

商船系教育機関と意見交換等の開催 ～ 国立高等専門学校(商船学科)5校との連絡会・同高専の教師を 対象とした講演会・視察・調査への協力 ～

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォース（TF）を設置し、優秀な日本人船員（海技者）確保のための様々な広報活動等を展開している。

活動に際しては、商船系教育機関（大学、高専、海事教育機構）との密な連携が重要であり、先生方に業界の現状等に関する理解を深めてもらうために、以下の通り講演会や情報交換を行った。

1. 国立高等専門学校（商船学科）5校との連絡会

2013年11月29日、国立高等専門学校（商船学科）5校（富山・鳥羽商船・広島商



議事進行をする鈴木副会長(当TF座長)

船・大島商船・弓削商船)の先生方と、人材確保TF各社(計5社)の連絡会を開催した。

連絡会では、本年も夏期に開催した「5校合同進学ガイダンス」について検証するとともに、2014年度同合同進学ガイダンスの進め方について意見交換を行った。

また、商船系5高専より文部科学省から「大学間連携共同教育推進事業」として採用された「海事人材育成プロジェクト」の2013年度の活動内容について報告が行われるとともに、高専側から改めて当協会に対して教員の乗船研修等に対する協力に対して謝意が述べられた。



5高専と意見交換の様様

2. 5高専の「海事人材育成プロジェクトへの協力」

当協会は、5高専の海事人材育成プロジェクトの一環として実施された「外航海運等についての講演会(12月16日)」及び「船舶管理会社及びコンテナターミナル視察調査(12月17日)」について協力を行った。

同講演会及び視察調査には、5高専より14人の教師が参加した。

12月16日の講演会では、田中海務部長より外航海運の概要及び海技者の実務等について講演を行った。



開催の挨拶をする西岡常務理事



その後、関係船社より現役の船長及び機関長を招いて5高専の教師との活発な質疑・意見交換を行い、海運実務の現場について一層の理解を深めていただき、各高専に帰って学生にフィードバックいただくように努めた。

ひな壇左より飯野海運落岩船長、川崎汽船重田船長、事務局田中部長(船長)、御姓課長(機関長)

12月17日に開催された視察調査については、川崎汽船には船舶管理会社を、また日本郵船には大井コンテナターミナルについて見学の機会をそれぞれご提供いただき実施した。当日は、海運の現場・実務から離れている高専の教員にとっては大変貴重な経験となった。

当協会としては、今後とも教師から海運の現場・実務について学生に対して有効なフィードバックが図られるようにこうした機会の提供について引き続き対応していきたいと考えている。



大井コンテナターミナルでの見学の模様